



Light Up Rotary

第2780地区
大磯ロータリークラブ



2014～2015年度RI会長
ゲイリー-C. K. ホアン

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 守屋 紀忠

会長エレクト 片野 一雄

幹事 原 千明

第2291回 例会 平成26年7月31日 (晴) No.5

■司会：大藤 勉

■点鐘：守屋 紀忠

■合唱：それこそロータリー

◇プログラム ・8月7日：片野 一雄さん ・8月14日：休会 ・8月21日：斎藤 好正さん

◇出席報告

| 例会 | 会員数 | 出席数 | 出席率 | メークアップ | 修正出席率 |
|-------|--------|-----|--------|--------|--------|
| 2291回 | 18(16) | 12 | 75.00% | — | — |
| 2289回 | 18 | 9 | 50.00% | 4 | 72.22% |

◇欠席者(4名) 小林 宮澤 石山、原卓さん

◇メークアップ(4名)

笹尾、宮澤、太田、大藤さん



出席報告：井上浩吉さん



(昼食は鮭チャーハン)

◇つぶやき

斎藤 正淳さん



この本、卓話の時に紹介しようと思って持ってきたのですが「日本の戦争」という本です。私には孫がいてこのような話は小学校でしなきゃいけないのに、しないので孫にと思って自分で買って読んでみました。文章は中学生ならば充分読めます。わかりかた正確に伝えています。日本の近世史日清戦争、日露戦争、北清事変など。そして何故日本が太平洋戦争をするようになったか?など。私が読んで孫に渡そうと思っています。私が子供の時盧溝橋事件が起きたのは昭和12年=1937年7月7日、その頃生まれて居られない方が多いと思いますが、私は5歳の時でした。私には盧溝橋事件というのはそんなに大きい大変なものという記憶はないんです。むしろその22日後、7月29日、北京の東にあった通州(現在は北京市内)に日本人が400人住んでいた。そこを中国軍保安隊3千人が襲い200数十人を殺しました。当時北京にいた特派員が報じた新聞の写真はもの凄い残虐さで、

死体の腹が切り裂かれ、はらわたを抉り出されていきました。盧溝橋事件よりもこの事件で日本中がわっと沸き立った。暴支懲よう(暴れる支那を懲らしめる)の世論が高まった。私は5歳でしたがその印象が強く、盧溝橋事件よりも通州の残虐事件の方が太平洋戦争の切っ掛けになったと思います。

◇会長報告

守屋 紀忠会長

・先日はなぎさの祭典で”ダメ・ゼッター”のうちわ配りご苦労さまでした。天気も良くわりあい海風があつて涼しくて楽でした。会員皆さんにもうちわを配ります。



・今日は斎藤先生卓話宜しくお祈いします。・今日の例会で7月が終わり、12分の1が過ぎます。
・今日は出席も良く幹事の檄が効いたか?と思いません。今後もよろしくお祈いします。

◇幹事報告

原 千明幹事

・先週のうちわ配りのご参加有り難うございました。うちわすべて捌けました。回覧：



・地区米山セミナー&カウンセラー会議開催のご案内
・活動計画書：伊勢原RC、伊勢原平成RC、二宮RC

・8月ロータリーレート：102円(7月102円)
・出席免除の手続は年1回の更新です。該当される方は必ず更新手続をして下さい。
・例会への出席を積極的にお祈いします。

◇委員会報告

☆スマイルボックス

太田 知加子さん

・守屋 紀忠さん：先日のなぎさの祭典、ご協力ありがとうございました。本日の卓話斎藤先生よろしくお祈いします。
・河本 親秀さん：斎藤ドクター卓話楽しみです。
・井上 浩吉さん：斎藤先生卓話楽しみです。



・百瀬 恵美子さん：先週のなぎさの祭典たのしかったです。斎藤先生卓話たのしみです。
・新宅 文雄さん：斎藤ドクター卓話楽しみです。
・太田 知加子さん：渚の祭典は暑いなか、御活躍下さりありがとうございます。斎藤先生！！ドクターの卓話楽しみです。

☆百瀬恵美子財団委員長：

7月19日、辻堂のアイクロス湘南7Fにて地区財団セミナーがありました。13時~17時まで講演、セミナー、趣旨説明、寄付のお願い、目標を聞いて参りました。昨年度の財団寄付状況を聞きました。



地区財団活動資金(DDF)：286,794ドル
使用状況：

| | |
|----------------|-----------|
| 地区補助金： | 103,500ドル |
| ポリオプラス： | 20,000ドル |
| 平和フェロー寄贈 | 25,000ドル |
| グローバル補助金2名 | 32,000ドル |
| グローバルプロジェクトへ協力 | 5,000ドル |
| 計 | 185,500ドル |

大磯クラブは「命を繋ぐ救急救命学習、中学生を通じて」プロジェクトにタイして地区補助金253,440円を受け取り、昨年度プロジェクトを完成しました。

大磯は昨年目標額をクリアーして表彰されました。本年度の寄付、特別寄付もよろしくお祈いします。

河本親秀さん：昨年秋に我がクラブの姉妹クラブ、ワイアナエ・コーストのメンバーであるジュレ・バックスター氏の奥さんケイ・バックスターさんがこられました。その後ケイさんはロータリー活動に興味を持たれて、ご主人と同じクラブの会員になりました。4月ごろからご主人を日本に連れてきたいが、その時大磯クラブを訪問したいと言う事で連絡を取り合っていましたところ、最終的に10月2日の例会に来たいと言ってこられました。この日は米山月間の米山奨学生卓話を計画していますが、ご夫妻の来訪を歓迎して頂きたいと思います。夫妻に何をして貰うかこれから打ち合わせします。

◇ 卓 話

◆◆◆時代の変遷／教育の変遷が子供達の 心に与える問題＝イントロダクション◆◆◆ 齋藤正淳さん



お葬式用写真の撮影：

名のあるカメラマンが助手と化粧係の二人を連れて我々のところへ来るんですね、お葬式用の写真を撮ると言って…、7千円。私はまだ先と思っていたら家内が「私撮りたい。一度撮って置いたんだけど60代で、それでは詐欺みたい」と言うので、お前が撮るなら私もと言う事になって…。女性がドーランみたいなものを持ってきたので、それ止めてくれと言ったんですが、光らせるためと言うので…。また生まれて初めて口紅を塗られました。(笑)

僕一人に120回枚くらい撮りました。機関銃を撃っているみたい。こんな大きなニコンのカメラで…。それから家内を撮って、その後、ご夫婦で撮りましょうと言われて…、夫婦で正式に撮るなんて何十年ぶり。並んで撮っているうちはいいんだけど、「奥さんの肩に手を回して下さい、手を握って下さい」なんて言われ、勝手が違っちゃって…、「目と目を合わせて下さい」なんて…。そんなの慣れていないから…。外人さんは慣れてますね！外国航路の船に乗るとパーティの時に正装して写真を撮るのですが、日本人は手をどうしてよいか分からない。外人さんはパッとそういう形になれるし、肩に手を回したり出来る。我々が女房の腰にへたに手を回したりしたら叩かれるよ…！（笑）

撮ったものから1枚作りますが、よかったらご覧下さいとDVDに入れたものを貰った。どうすれば見られるか？丁度息子が来たのでどうやって見るんだと言いましたらそういう機械があって、息子の解説付きで見ました。息子が「おやじとお袋がこんな写真撮っちゃって、どうするんだ」なんて…。

家内のものを合わせると200何十枚を見るのが大

仕事で、その中から1枚選ぶのですが、その前に10枚くらい選びだします。年寄りの写真はあまりクローズアップするものではありませんねえ。皺まではつきり写っていて嫌になっちゃう…。昨日はそれを選ぶのに1日掛かってしまいました…。

本 論

昭和10年代、20年代以上の方達に、昔の事で忘れられないように覚えておいて貰った方がいい、胸に残るような話を幾らか話が出来ればいいなと思いません。堅い話では面白くないので…

言葉の変遷

死語というのがあります。これは堅い言葉でもあり、柔らかい言葉でもあります。死語というのは思い出し難いものですが、ふとした時に今はこの言葉は使っていない、昔はよく使ったが…。

「おてしょ」小皿の事=お手塩を盛るためのお皿、「お」を取って「てしょ」とも言う。

色気についての言葉：

自分の彼女の事を「色女」、「いろ」、「すけ」、「これ(小指を立てて)」、「元カノ」等。

自分の彼氏の事を「色男」明治時代には「^{まぶ}間夫」、「(親指を立てて)これ」、今は「カレシ」(棒読み)、「元カレ」など。

アベック=男女連れ：昭和20~30年代まで、40年代オイルショックの頃から使われなくなった。これはフランス語で英語のWith、ドイツ語のMitに同じですがフランスやアメリカ、ドイツでは使われていない。

仲間／学生言葉(隠語)で女性の事を「メツチェン」綺麗な娘さんを「シェーネス・メツチェン」、そこから出たのが「シャン」。もっと綺麗な娘を「トテシャン」。

文学でどこまで読んでいるかと息子に聞いたら三島由紀夫。私が夏目漱石、森鷗外と言ったらそれは古文だと言われてしまいました。古文を噛み砕いて近代日本語にしたのが二葉亭四迷、樋口一葉で、それ以後は現代文と思っていましたが息子にとっては夏目漱石は古文だという。終戦後の文学が現代文であって、古文は読みたくないと言う。

漱石を読んでいると当時の学生のハイカラ語が出て来ます。「諸君」、「君^{きみ}」、「細君^{さいくん}」、「主人」、「ご亭主」、「うちの人」、「宿六」など。

母は明治29年生まれですが当時「奥さん」というのはサラリーマンの事で、下町では、「お上さん」と言っていた。奥さんと言うのは亭主に寄生している人

で、自分一人の才覚で人を使う事の出来ない人と言うことで奥さんと言われると怒ったものだったそうです。

お上さんの方が誇り高かったのが、だんだんと皆が奥さんと呼ばれるようになり、今はどんな人でも奥さんと呼ばれるようになってしまった。

父は九州大学を出たのですが東京で結婚して福岡に赴任したところ、東京では「奥さん」と呼ばれていたのが、「ごりょんさん（御寮人さん）」と呼ばれた。



プライバシーの問題：

病院によっては患者さんを〇〇様と呼びます。何かすぐつたくないませんか？ところが「様」どころか名前も呼ばないところが出て来ました。何故かという「名前を呼ぶとプライバシーがばれる、あの人も病気でここに

来ているのが分かってしまうから番号で呼んでくれ」と。番号で呼んだら大混乱が起きました。患者が自分の番号が分からない。呼んだら別の人が入ってくる。カルテを間違えたら大変なことになる。しかし今も番号にしているところがあります。病院は何百番にもなり、同姓同名が可成りいる。大磯でも字には同姓が沢山いて、正子や花子などポピュラーな名前があるので、ある病院で名前を呼んだら3人も入って来た例があります。

うちの家内が六本木の病院で同姓同名にぶつかって：呼ばれて入っていったら全然別のカルテを見て話をしているので、私の薬はこれと違いますと言っても医者が信用しない。分かるまで5~6分かかったそうです。その他に分かり易くするために町の名前を入れ一何町の何々さんと呼ぶ。そこまで行くとプライバシー問題になる…。これから先どの様に呼ぶか問題です。

(会場から：町役場では番号で呼んでいる。それは名前前で呼ぶと離婚届などの場合プライバシーに関わってくるから…。)

役場に来る人は頭がしっかりしているから番号でいいですが、お年寄りには番号を間違えたりするので混乱が起きます。それでは名前と番号でとなると何にもならない…。

曾野綾子を書いていましたが、先日ベネッセから個人情報漏れたことで、実際どれだけの損害を受

けるか？ダイレクトメールが増えても読まないで捨ててしまえばいいし。何程の損害が発生するのか…？と。

我々が同窓会の連絡を取るために学校に尋ねても電話番号は教えてくれないので名簿は作れない。プライバシーを守る事も大事だが、それで失うものは大きいと思います。

近頃の年賀状には電話番号入ってない。こいつ懐かしいな、と電話を掛けようとしても、何十円もお金を払って104番に尋ねなければならない。この頃友達に電話しても出ないで留守番電話でファックスして下さいという。ファックスやメールでは声が聞けない。プライバシーの保護も行き過ぎると色々問題が起きてきます。

話を戻して先程の「色事」の言い方、これ面白いですから宿題にしますので皆さん家に帰って考えて下さい。

色事よりもっと下の話=「お便所」の話、皆さん小学校の頃授業中にトイレに行きたくなったらどうしました？漏らしてしまった人もあるでしょ？手を上げて先生に申告しましたか？僕たちは男女共学でなかったんで女の子のことは分かりませんが、「しょんべん」に行きたいと言いました。その頃色んな言い方があるんだな、面白いなと思いました。一今は黙って行って良いのかな？。言うとその子が虐められるから？これでは統制取れない…。一番面白かったのは転校してきた子供が先生「しょんべんばり」行っていいですかと言いました。小便をすると言うのではなくて「小便ばり」方言でしょうね。大磯では何と言いましたか？=「小便する」でした=学校には何んと書いてありましたか？「便所」ですか？「お手洗所」ですか？=「便所でした」=その後「洗面所」、今はトイレが多くなりました。昭和20年前にはトイレはなかった。通用しなかったでしょう。WCは昭和20年から40年アメリカ進駐軍が日本に来てからです。WCはWater Closetで水洗便所のことですが、当時は水洗ではなく、それはトイレットでしたが日本人はWCは便所のこととっていた。「手洗場」と書いて「ちょうずば」、「おちょうず」に行く、お婆ちゃんは「はばかり」を貸して下さい。「おはばかり」とも。憚るような所へ行くから「はばかり」。あそこに行く事は恥ずかしい事だと言う前提があった。=こういう言葉の学問が出て来ました。

言葉の通用年齢と言うのがあります。ある言葉を100人に聞いて、年代別にその言葉が分かる人が何%あるか調べて、その年代の知っている人が50%いる接点を言葉別に曲線を作っています=

「はばかり」の他に「雪隠」、「ご不浄」も。

=子供の頃の田舎(新潟)の農家の便所の経験：田舎のトイレは母屋から離れたところにあり、2燭光の電気しか付いてない。夜中にトイレに行った。暗くてよく見えなかった。自分の紙は持っていなかったので置いてあった新聞紙を使った。翌日行ってみたら新聞紙が使ったものと使っていないものが並べて置いてあり、びっくりしました。紙を落とすと肥料に使う時の邪魔になるからです。

満州長春の思い出：

自分が6歳(昭和11年)の時満州の長春の叔母の所に遊びに行ったところ、そこは和式水洗便所でした。東京でも水洗は殆どなかった。冬12月に行きました。兄貴から外でしょんべんするんじゃないよ、寒いからチンチンまで凍ってしまうからと言われていました。それで叔父の家に着くやいなや伯父の家の門柱の前で試してみようと立ちしょんべんしたんです。そしたら雪が黄色くなって融けた。私は小便がすぐに氷柱になるのを楽しみにしたんですが……。それで一件落着で、その後、母に叱られ、従姉妹達には不行跡なガキが来たと思われて……。そして家のトイレに行ったら水がシャーと流れるので叔母さんに「此处で手を洗うのか」と言ったら、「日本の子は何にも知らないのね」と笑われてしまった覚えがあります。長春では電話は既に自動電話でした。日本はまだ手回し電話でした。長春は人工都市で日本の最新のものを持って行ったんですね。

長春と東京の差より、東京と田舎の差はもっと大きかった。当時修学旅行で東京に来た子を見ただけですぐこの子は遠い田舎から来たと分かった。ほっぺたが赤い。今の子は顔は変わらないし、服装も洒落たものを着ています。昔の小学校の修学旅行は東日本からは江の島、鎌倉が定番でした。関西は伊勢神宮と二見浦でした。この江の島、鎌倉の修学旅行には教育がありました。勤王教育、楠木正成、新田義貞が北条氏を滅ぼした歴史を教える。また唱歌の鎌倉：「七里が浜の磯伝い 稲村ヶ崎名将の・・・」を見せるなど。今はそのような事はなくなりました。

今日の話の本筋はそう言った「**教育の変遷によって与えられる自分たちの根底にある考え方が変わってくる**こと」を話そうと思って、今日はそのイントロです。イントロだけで終わってしまいました。

(次回に続く)